

# 令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【宮原中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	引き続き、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るため、ICT教材やドリル教材を計画的に活用する。単元を通した振り返りを充実させ、学習内容を確実に身に付けさせる指導を推進する。
思考・判断・表現	課題解決型の学習や対話的な学びを一層充実させ、生徒が自ら考えを整理し、表現する機会を増やしていく。また、記述式問題への継続的な取組を通して、活用力のさらなる向上を図る。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】 国語の「話すこと・聞くこと」において、正解率が低くなっている。 【指導上の課題】 生徒が反復・習熟する時間設定が不十分である。自立した学習者の育成を目指す。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、基本的事項の徹底に取り組む。【週に1度の実施】また、個に応じた支援をして、協働的に学び合う場の充実を図っていく。【月に1度の実施】、「スタディサプリ」も活用し宿題配信により個人で学習に取り組めるようにする。【学期に1度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 数学、英語で「思考・判断・表現」の問題の無回答率が高い。 【指導上の課題】 問題解決に取り組む時間が不十分である。	⇒ ICT機器を有効に活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信し、互いに学び合う場を設定していく。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基本的事項の反復・習熟を行う。【毎回の授業で実施】【R7年度さいたま市学習状況調査「学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な解答の割合が85%以上】

<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	①結果分析(管理職・学年主任等) ②スタディサプリ等のICT教材を活用し、基礎的・基本的事項の反復・習熟に継続して取り組んだ結果、基礎内容の定着に改善が見られる。特に、言語文化や数と式の領域において理解度の向上がうかがえる。無回答率も減少傾向にあり、着実な成果が見られている。
思考・判断・表現	B	ICT機器を効果的に活用し、生徒一人ひとりの思考時間を確保するとともに、話し合い活動を充実させたことで、自分の考えを深める姿勢が育ってきている。記述式問題への取組にも前向きな変化が見られ、思考力・判断力・表現力の向上につながりつつある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語-10pt、数学-1ptであった。国語の言葉の特徴や使い方に関する事項に関しては、全国平均より+4ptであった。数学の数と式においては全国平均より+9ptであった。	
思考・判断・表現	R7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語+0.5pt、数学+13ptであった。国語の話すこと・聞くことの領域において、全国平均より+3ptであった。数学データの活用の領域において、+4ptであった。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校を比べると、おおむね平均値と同等であった。特に、中2理科の「粒子」を柱とする領域において、学習状況調査の市調査結果と比較し、3pt以上上回ることができた。	
思考・判断・表現	どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校を比べると、おおむね平均値と同等、または上回る結果であった。特に、数学では中1・中3、社会では中2・中3、理科では中2・中3において市調査結果を上回ることができた。全体としても改善傾向が見られるため、引き続き既習事項を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	スタディサプリ等を活用し、我が国の言語文化に関する領域、数と式の領域に関わる反復・習熟に取り組むことができた。また、協働的に学び合う機会の設定では、教科によって差が出てしまった部分もあり、学校全体で共有して、一斉に取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	スタディサプリ等を活用し、基本的事項の反復・習熟を行ったが、書くこと、読むことに関わる領域で毎回の授業での実施は十分とは言えない。ICT機器を活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信し、学び合う時間の設定については、今年度当初より多く取り入れられるようになってきた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)